

◆一華会展の様子



展覧会初日、山田翠香副会長開会あいさつ、
続いて赤澤智恵子副会長による作品解説

<表彰式>



三宅華邦副会長の審査概評を兼ねて
開会あいさつ、続いて毎日新聞藤田祐
子福山支局長様より祝辞を頂いた



大賞受賞の小林久子さん



揮毫される大賞、同人特別賞受賞の皆さん



小林さんによる揮毫



ふくやま美術館前のモニュメントをバックに鑑・審査員の
先生と受賞者の皆さんで記念撮影

<祝賀懇親会>



大楽悠雪副会長による開会あいさつ



衆議院議員小林史明先生のご祝辞



鑑・審査員の皆さん



『それいけカープ』熱唱の
大坪康巳毎日新聞広島支局長



会場の皆さんも大坪さんに合わせて
大合唱となり大変、盛り上がった

<ワークショップ>

展覧会会期中、ふくやま美術館において「唐時代の楷書に取り組もう」と題して、参加者は欧陽詢の『九成宮醴泉銘』と顔真卿の『自書告身』に熱心に取り組んだ。指導には児玉恒風展覧会部長があたり、中学生から大人まで20数名の参加があった。



手本書きされる児玉恒風さん



参加者の皆さん

＜併設古典臨書コーナー＞

前回に引き続き、鑑・審査員よる古典臨書作品が展示された。今回は『孔子廟堂碑』『温泉銘』『枯樹腑』『書譜』『草書孝経』『古詩四帖』『祭姪文稿』『自叙帖』など隋・唐時代の14点の作品であった。千葉幽篁理事長より、その時代の背景や書の特徴を作品を見ながら解説が行われた。



千葉幽篁さんの解説



展示の臨書作品